

経済・金融 フラッシュ

雇用関連統計 24年12月－女性の就業者数が5ヵ月連続で過去最高を更新

経済研究部 経済調査部長 斎藤 太郎

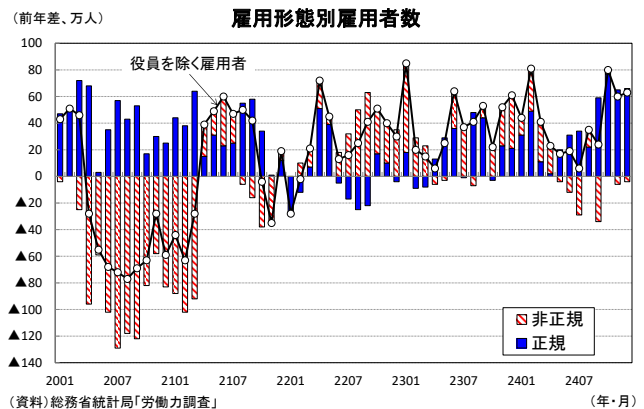
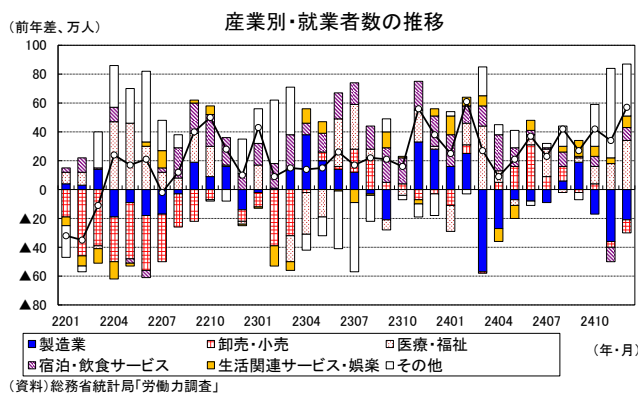
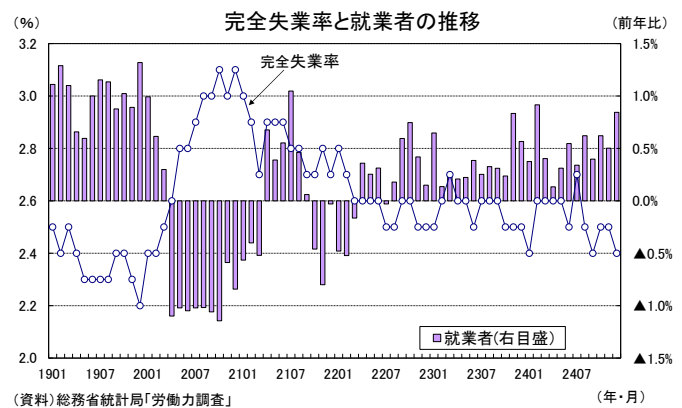
TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 女性の就業者数が5ヵ月連続で過去最高を更新

総務省が1月31日に公表した労働力調査によると、24年12月の完全失業率は前月から0.1ポイント低下の2.4%（QUICK集計・事前予想:2.5%、当社予想は2.4%）となった。

労働力人口が前月から14万人の増加となる中、就業者が前月から14万人増加し、失業者は前月から2万人減少の170万人（いずれも季節調整値）となった。10月からの3ヵ月で労働力人口は45万人、就業者は40万人増加した。失業率は横ばい圏で推移しているが、労働市場への参入が進むもとで就業者の増加が続いており、前向きな評価ができる。

就業者数は前年差57万人増（11月：同34万人増）と29ヵ月連続で増加した。男女別には、男性が前年差13万人増と2ヵ月連続で増加、女性は前年差43万人増と34ヵ月連続で増加した。女性の就業者数（季節調整値）は前月から16万人増の3116万人となり、5ヵ月連続で過去最高を更新した。



産業別には、製造業が前年差21万人減（11月：同36万人減）と3ヵ月連続、卸売・小売業が前

年差9万人減（11月：同4万人減）と2ヵ月連続で減少したが、宿泊・飲食サービス業が前年差9万人増（11月：前年差10万人減）と2ヵ月ぶりに増加したほか、生活関連サービス・娯楽業（11月：前年差4万人増→12月：同8万人増）、医療・福祉（11月：前年差18万人増→12月：同34万人増）の増加幅が拡大した。

雇用者数（役員を除く）は前年に比べ63万人増（11月：同60万人増）と34ヵ月連続で増加した。雇用形態別にみると、正規の職員・従業員数が前年差66万人増（11月：65万人増）と14ヵ月連続で増加したが、非正規の職員・従業員数が前年差4万人減（11月：同6万人減）と2ヵ月連続で減少した。

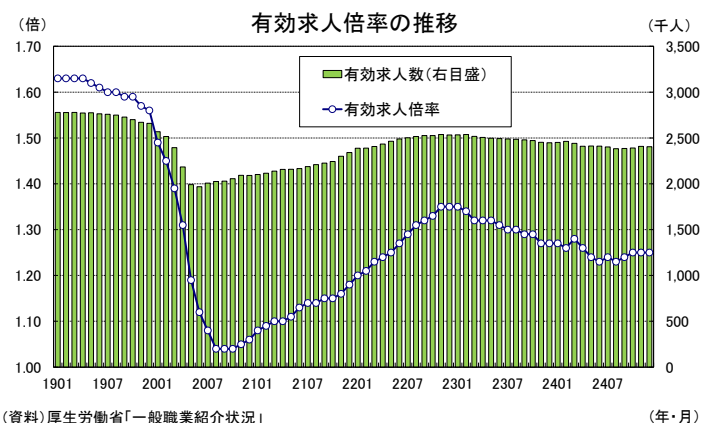
厚生労働省の「毎月勤労統計」では、パートタイム比率の上昇が続いているが、「労働力調査」では、雇用の正規化が大きく進んでいる。

2. 有効求人倍率は前月から横ばい

厚生労働省が1月31日に公表した一般職業紹介状況によると、24年12月の有効求人倍率は前月から横ばいの1.25倍（QUICK集計・事前予想：1.25倍、当社予想も1.25倍）となった。有効求人数（前月比▲0.2%）、有効求職者数（同▲0.2%）ともに前月から小幅な減少となった。

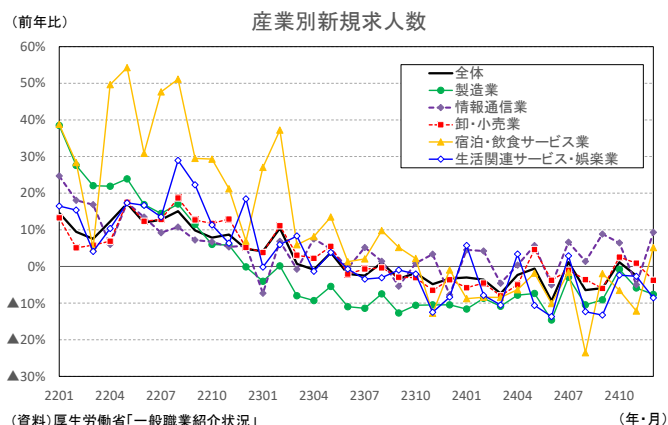
有効求人倍率の先行指標である新規求人倍率は前月から0.01ポイント上昇の2.26倍となった。新規求人数が前月比2.2%の増加となり、新規求職申込件数（同2.0%）の伸びを上回った。

新規求人数（原数値）は前年比▲3.7%（11月：同▲2.6%）と2ヵ月連続で減少した。産業別には、宿泊・飲食サービス業（11月：前年比▲12.2%→12月：同5.2%）、情報通信業（11月：前年比▲5.0%→12月：同9.3%）が増加に転じたが、運輸・郵便業（11月：前年比2.0%→12月：同▲6.1%）、卸売・小売業（11月：前年比0.9%→12月：同▲3.8%）が減少に転じ、建設業（11月：前年比▲4.4%→12月：同▲4.9%）、製造業（11月：前年比▲5.9%→12月：同▲7.6%）は前月から減少幅が拡大した。



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

(年・月)



(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」

(年・月)

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性ねと安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。